

デーヴォ ガイド



2025.1.13-19

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship



4:27 そのとき、弟子たちが戻って来て、イエスが女の人と話しておられるのを見て驚いた。だが、「何を求めですか」「なぜ彼女と話しておられるのですか」と言う人はだれもいなかった。

4:28 彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。

4:29 「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのでしょうか。」

4:30 そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。

4:31 その間、弟子たちはイエスに「先生、食事をしてください」と勧めていた。

4:32 ところが、イエスは彼らに言われた。「わたしには、あなたがたが知らない食べ物があります。」

4:33 そこで、弟子たちは互いに言った。「だが何が食べる物を持って来たのだろうか。」

4:34 イエスは彼らに言われた。「わたしの食べ物とは、わたしを遣わされた方のみこころを行い、そのわざを成し遂げることです。」

4:35 あなたがたは、『まだ四か月あって、それから刈り入れだ』と言ってはいませんか。しかし、あなたがたに言います。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。

4:36 すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに至る実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。

4:37 ですから、『一人が種を蒔き、ほかの者が刈り入れる』ということばはまことです。

4:38 わたしはあなたがたを、自分たちが労苦

したのでないものを刈り入れるために遣わしました。ほかの者たちが労苦し、あなたがたがその労苦の実にあずかっているのです。」

4:39 さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことばによって、イエスを信じた。

4:40 それで、サマリア人たちはイエスのところに来て、自分たちのところに滞在してほしいと願った。そこでイエスは、二日間そこに滞在された。

4:41 そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。

4:42 彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」

当時サマリヤ人はユダヤ人からはさげすまれていたので、会話をすることはありませんでした。しかし弟子たちは「なぜ彼女と…」と言うこともなく、主イエスの働きに尊厳を感じていたようです。そこでイエス様は弟子たちに、「わたしの食物」として、最も必要であり欲するものを教えられたのでしよう。

それは人を救いに導くことです。イエス様は人としてこの女性と接したのですから、イエス様ならできて自分にはできないのは当然だと、考えるのは当てはまりません。イエス様はこのような人の来ない時間帯に水を汲みにくる女性の素性を察して、その上で女性の人格を認めながら、その本当の必要に沿って伝道したのでした。

私たちがまた、伝道という食物の味を体験してみましよう。その喜びを味わうことができますか

ら、チャレンジしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 14日 火曜

ヨハネ



4:43 さて、二日後に、イエスはそこを去ってガリラヤに行かれた。
4:44 イエスご自身、「預言者は自分の故郷では尊ばれない」と証言なさっていた。
4:45 それで、ガリラヤに入られたとき、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎したが、それは、イエスが祭りの間にエルサレムで行ったことを、すべて見ていたからであった。彼らもその祭りに行っていたのである。
4:46 イエスは再びガリラヤのカナに行かれた。イエスが水をぶどう酒にされた場所である。さてカペナウムに、ある王室の役人がいて、その息子が病気であった。
4:47 この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのところに行った。そして、下って来て息子を癒やしてくださいるように願った。息子が死にかかっていたのである。
4:48 イエスは彼に言われた。「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じません。」
4:49 王室の役人はイエスに言った。「主よ。どうか子どもが死なないうちに、下って来てください。」
4:50 イエスは彼に言われた。「行きなさい。あなたの息子は治ります。」その人はイエスが語ったことばを信じて、帰って行った。
4:51 彼が下って行く途中、しもべたちが彼を迎えに来て、彼の息子が治ったことを告げた。
4:52 子どもが良くなった時刻を尋ねると、彼らは「昨日の第七の時に熱がひきました」と言った。
4:53 父親は、その時刻が、「あなたの息子は

治る」とイエスが言われた時刻だと知り、彼自身も家の者たちもみな信じた。
4:54 イエスはユダヤを去ってガリラヤに来たから、これを第二のしるしとして行われた。

ガリラヤの人々はイエス様のみわざを見て信じましたが、この王室の役人は「あなたの息子は治ります。」とのことばを信じました。ここに神様を信じる信仰の姿勢があります。

私たちに求められているのは、確認ではなくて信仰です。見て受け入れるのは確認ですが、見ないで信じるのは信仰です。人はその人の言うことを信用できないときに、証拠を求めるのです。イエス様という方を信用しましょう。そして主のみわざを見ましょう。

息子が治ったのが、この役人に声をかけられたとき、すなわちこの役人が信じた時であることを心に留めましょう。イエス様を信じようという決心のあるそのときに、主にみわざが始まるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 水曜

ヨハネ



5:1 その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。
5:2 エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があり、五つの回廊がついていた。
5:3 その中には、病人、目の見えない人、足の不自由な人、からだに麻痺のある人たちが大勢、横になっていた。
5:4 【本節欠如】
5:5 そこに、三十八年も病気にかかっている人がいた。
5:6 イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたいか。」
5:7 病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかかると、ほかの人が先に下りて行きます。」
5:8 イエスは彼に言われた。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」
5:9 すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。
5:10 そこでユダヤ人たちは、その癒やされた人に、「今日は安息日だ。床を取り上げることは許されていない」と言った。
5:11 しかし、その人は彼らに答えた。「私を治してくださった方が、『床を取り上げて歩け』と私に言われたのです。」
5:12 彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け』とあなたに言った人はだれなのか。」
5:13 しかし、癒やされた人は、それがだれであるかを知らなかった。群衆がそこにいる間

に、イエスは立ち去られたからである。
5:14 後になって、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたは良くなりました。もう罪を犯してはなりません。そうでないも、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれません。」
5:15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を治してくれたのはイエスだと伝えた。
5:16 そのためユダヤ人たちは、イエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。
5:17 イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」
5:18 そのためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。

この足なえの人は、池に自分を入れてくれる人を願っていました。それは、池の水が動いた時に最初に入った人が癒されるという言い伝えを信じてのことでした。それは誰が言い広めたのが分りませんが、それを期待して、人々が池の周りに待機していたのでした。しかし足が悪いこの人には希望がありませんでした。他の人に遅れを取るからです。

このように人間が作り出した条件を満たせずに、悩み続ける人はいるものです。しかし、本当に必要なものは違います。イエス様はそれを見抜いておられました。彼に必要なのは池ではなく、まして彼を「入れてくれる人」でもありません。「床を取り上げて歩」くことです。

私たちは回りに影響されて、本当に必要ではないものを求め続けて希望をなくしているかもしれ

ません。もう一度、神様から問いかけていただきましょう。そして神様から本質的な解決をいただきましょう。それは何でしょうか。教えていただきましょう。

安息日の規定は神様から与えられたものです。しかしユダヤ人たちは、神様よりも規定の方に固執していました。安息日は神様を第一にするためのものなのに、全く本末転倒なことをしてしまったのです。それだけでなく、安息日を守らないということで、神様ご自身である主イエスまでも迫害しました。

私たちもここは警戒しなくてはならないところです。神様の御心よりも、規定や権威を守ろうとするなら、このユダヤ人たちと一緒にです。

誰かとの関係で、自分が正しいはずと思っていることがあるなら、もう一度主の御心は何なのかを祈って聞いてみましょう。また主イエスをどんな規定よりも尊い方としてあがめましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 16日 木曜

ヨハネ



5:19 イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分から何も行うことはできません。すべて父がなさることを、子も同様に行うのです。

5:20 それは、父が子を愛し、ご自分がすることをすべて、子にお示しになるからです。また、これよりも大きなわざを子にお示しになるので、あなたがたは驚くことになります。

5:21 父が死人をよみがえらせ、いのちを与えるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちを与えます。

5:22 また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子に委ねられました。

5:23 それは、すべての人が、父を敬うのと同じように、子を敬うようになるためです。子を敬わない者は、子を遣わされた父も敬いません。

5:24 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。

5:25 まことに、まことに、あなたがたに言います。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。それを聞く者は生きます。

5:26 それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにしてくださったからです。

5:27 また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。

5:28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞く時が来るのです。

5:29 そのとき、善を行った者はよみがえっていのちを受けるために、悪を行った者はよみがえってさばきを受けるために出て来ます。

ここに御子イエスと御父との一体が表わされています。その一体は愛と信頼の関係であることが分ります。最も権威のある神そのものである方が、御父に対して「子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何も行なうことはできません。」と、全くの服従と謙遜を貫かれます。ここに権威があるのです。

神を知らない人々の権威は、自分の思い通りにできる力と考えます。しかし、本当の権威とはイエス様のように神に服従することなのだを知りましょう。私たちはその点で思い違いをしてはいないでしょうか。仕事において、子育てにおいて、友人関係において考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 金曜

ヨハネ



5:30 わたしは、自分からは何も行うことができません。ただ聞いたとおりにさばきます。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたしは自分の意志ではなく、わたしを遣わされた方のみこころを求めるからです。

5:31 もしわたし自身について証しをするのがわたしだけなら、わたしの証言は真実ではありません。

5:32 わたしについては、ほかにも証しをする方がおられます。そして、その方がわたしについて証しする証言が真実であることを、わたしは知っています。

5:33 あなたがたはヨハネのところの人に遣わしました。そして彼は真理について証しました。

5:34 わたしは人からの証しを受けませんが、あなたがたが救われるために、これらのことを言うのです。

5:35 ヨハネは燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で大いに喜ぼうとしました。

5:36 しかし、わたしにはヨハネの証しよりすぐれた証しがあります。わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわざが、すなわち、わたしが行っているわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わされたことを証しているのです。

5:37 また、わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証しをしてくださいました。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたことも、御姿を見たこともありません。

5:38 また、そのみことばを自分たちのうちにとどめてもいません。父が遣わされた者を信

じないからです。

イエス様がキリストすなわち救い主であることは、ヨハネの証し、イエス様のみわざの証し、そして御父の証しがあります。イエス様は客観的に検証可能な方でもあるのです。

私たちはイエス様が遠く感じられることもありますが、そのようなときは、ヨハネのような信仰の人の証しを聞いたり、聖書からイエス様のすばらしいみわざに心を留めたりすることは大いに力になります。また直接御父に祈ることも、聖霊が働いてくださりイエス様と近くなることができまます。様々なことによつて主と交わることができますから、それらを楽しみつつ実践しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18日 土曜

ヨハネ



5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。

5:40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

5:41 わたしは人からの栄誉は受けません。

5:42 しかし、わたしは知っています。あなたがたのうちに神への愛がないことを。

5:43 わたしは、わたしの父の名によって来たのに、あなたがたはわたしを受け入れません。もしほかの人がその人自身の名で来れば、あなたがたはその人を受け入れます。

5:44 互いの間では栄誉を受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたが、どうして信じることができるでしょうか。

5:45 わたしが、父の前にあなたがたを訴えると思っはなりません。あなたがたを訴えるのは、あなたがたが望みを置いているモーセです。

5:46 もしも、あなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことなのですから。

5:47 しかし、モーセが書いたものをあなたがたが信じていないのなら、どうしてわたしのことばを信じるでしょうか。」

聖書はイエス様について「証言している」と、イエス様ご自身が明言なさいます。聖書は堅苦しい学だけの本ではありません。また人の思いを遠ざけるような心の通わない信条や戒律の本でもありません。何よりもイエス様を表す唯一の神のみことばなのです。そしてイエス様は愛のお方であり、その愛を伝えるのが聖書なのです。

ですから、聖書を愛する人はイエス様を愛し、イエス様を愛する人は聖書を愛します。イエス様に信頼する人はイエス様に従い、聖書に従うのです。聖書を読むときは、イエス様の「もとに」行こうと思いつつ読みましょう。

モーセは旧約の聖徒ですが、そのモーセに与えられた律法の成就者がイエス様です。神様のみこころは旧約も新約も首尾一貫しているのです。そのような全能の主に信頼して、従いましょう。またその主から与えられた人生を肯定的に生き抜きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、ティベリアの湖の向こう岸に行かれた。
6:2 大勢の群衆がイエスについて行った。イエスが病人たちになさっていたしるしを見たからであった。
6:3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこに座られた。
6:4 ユダヤ人の祭りである過越が近づいていた。
6:5 イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」
6:6 イエスがこう言われたのは、ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた。
6:7 ピリポはイエスに答えた。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」
6:8 弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。
6:9 「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」
6:10 イエスは言われた。「人々を座らせなさい。」その場所には草がたくさんあったので、男たちは座った。その数はおよそ五千人であった。
6:11 そうして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座っている人たちに分け与えられた。魚も同じようにして、彼らが望むだけ与えられた。
6:12 彼らが十分食べたとき、イエスは弟子た

ちに言われた。「一つも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい。」
6:13 そこで彼らが集めると、大麦のパン五つを食べて余ったパン切れで、十二のかごがいっぱいになった。
6:14 人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に來られるはずの預言者だ」と言った。
6:15 イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。
6:16 夕方になって、弟子たちは湖畔に下りて行った。
6:17 そして、舟に乗り込み、カペナウムの方へと湖を渡って行った。すでにあたりは暗く、イエスはまだ彼らのところに来ておられなかった。
6:18 強風が吹いて湖は荒れ始めた。
6:19 そして、二十五ないし三十スタディオンほど漕ぎ出したころ、弟子たちは、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて來られるのを見て恐れた。
6:20 しかし、イエスは彼らに言われた。「わたした。恐れることはない。」
6:21 それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。すると、舟はすぐに目的地に着いた。

癒しなどのみわざを期待してイエス様の許に來る人は大勢いました。しかし、イエス様の目的は彼らに、ご自身が天からのパンであることを知らしめることです。今日のみわざを期待して教会に來る人や、希望が叶ったと喜ぶ人がいますが、それだけでは悪霊の神々とさほど変わりません。それらを通して、主のみこころが分る必要があるのです。

「イエスはピリポを試すため」に、彼に質問し

ました。それはピリポなど弟子たちがイエス様のみわざについて、よく考えるようになるためです。今日も主は私たちを試すことがあります。それは教育的な配慮です。迷うときや悩むときは、イエス様が愛を持って、良い体験をさせようとしてくださっているのだと知りましょう。そして、しっかりと祈りと聖書からのみことばを通して神様の答えをいただきましょう。

また、しるしを見て信じた人々は、結局自分たちのことしか考えていませんでした。主のみこころが何であるかではなく、勝手に王を立ててこの世的な変革を望んだのです。「この方こそ...預言者だ」というのは一見信仰のことばのようですが、実は神ではなく人間の考えを信じているのに過ぎないのです。神様の御心やご計画よりも自分の願望が先走っていないか考えてみましょう。

今日でも奇跡などのしるしを求めるクリスチャンも少なくありません。しるしはイエス様を証言している聖書によって裏付けられます。また聖書によって主のみこころがわかっ

てこそ、意味があるのです。弟子たちはイエス様を見たのに、恐れてしましました。主イエスをいつも見て、いつも共に歩んでいないと、せつかくの愛の主が恐い存在に感じてしまうこともあるのです。しかし主は「恐れることはない」と言ってくださいますから、そのことばをいつも聞くようにしましょう。そして安心して主のもとに近づき、祈り、従って行きましょう。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？